

宮崎県 J F 共済推進本部 本部会長 矢部 廣一

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、日頃より J F 共済事業へのご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。新春を迎えるにあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、去年は元旦の能登半島地震にはじまり日本全国、台風、竜巻、豪雨等、多くの自然災害が発生し、大きな被害を受けました。自然災害により被害に遭われた漁業関係者および地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

宮崎県においても去年はまさに自然災害の年でした。8月8日には最大震度6弱の日向灘沖地震が発生し、8月29日には台風被害に加え、竜巻が発生して大きな被害があり、さらには10月21日からの豪雨で延岡市、日南市を中心に大きな被害を受けました。「組合員・地域住民の暮らしの保障を守る」J F 共済としては共済金を通して被害に遭われた皆様に少しでもお役に立てるよう、漁協職員と一丸となって事故調査を行い、地震においては約1,200件の契約を調査し、その中の役700件についてお支払いすることができました。猛暑の中被害調査に協力して頂いた漁協職員の皆様方へこの場を借りてお礼申し上げます。

自然災害被害で暗いニュースが多い年ではありましたが、南郷漁協所属のかつお船「竜喜丸」が漁獲量2年連続日本1位という快挙を達成し、同漁協所属の「由丸」も2位の成績を収めるとの明るいニュースもありました。しかしながら依然不安定な世界情勢による物価の高騰、めまぐるしく変化する社会情勢・近年の猛暑の影響で J F 共済の事業基盤であります漁業・漁村を取り巻く環境は以前にも増して厳しい状況になりますことは皆様ご承知のとおりです。

このような中、J F 共済では、3か年計画「浜の笑顔を共済とともに～JF 共済3か年計画」の中間年度として、課題である「保有契約量の減少傾向に歯止めをかけるための取組み」を着実に実践し、J F 共済事業の健全性・信頼性の強化に取り組んでいるところでございます。

推進本部といたしましては、3か年計画における「生命・建物の保障を組合員・世帯構成員・地域住民に幅広く提供し、J F 共済の輪の拡大を図って行く。」ことに重点的に取組み、J F 組合員等1人ひとりに満足・納得のいく保障を提供できるよう、漁協役職員はもとより、女性部・青壮年部等のご協力を賜り、各共済種目の目標達成に向けて積極的な普及推進活動を展開しているところでございます。

私たち J F 共済は、海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある地域づくりに貢献してまいりたいと思っておりますので、どうか本年も、引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



最後に、皆様方のご健勝と操業の安全及び大漁をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。